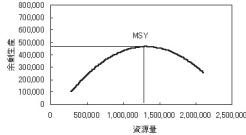


用語解説

| | | |
|---|--|--|
| ABC (Allowable Biological Catch) | 生物学的漁獲可能量 | |
| Abundance index | 資源量指数 | 資源豊度の指標となる情報。調査による絶対量の推定値や、統計的手法を用いて CPUE から資源豊度以外の影響を補正して資源豊度の相対的な変化を表わすようにしたものなどが用いられる。 |
| ADAPT-VPA | | 年齢別漁獲尾数と CPUE などの資源量指数を用いて年齢別資源尾数を推定するチューニング VPA の一種。北米東海岸の資源評価および ICCAT、NAFO において年齢別漁獲尾数データが得られる場合のスタンダードな資源評価手法となっている。 |
| AMSY(Average Maximum Sustainable Yield) | 平均最大持続生産量 | 平均的な加入量での最大持続漁獲量。平均的な加入量で FMAX で漁獲を続けたときに達成される。IATTC が用いている。 |
| Antarctic front(Antarctic convergence line) | 南極前線 (南極収束線、南極収斂線) | 南極の周囲の南緯約 45 度から 60 度にある、暖流 (亜熱帯海流) と寒流 (南極海流) の境界。位置は一定していない。この境界では水温、塩分などの海洋環境が大きく変化し、気象上の前線も形成される。また、海洋生物の分布の境界としても重要。 |
| Archival tag(data storage tag) | アーカイバルタグ | データ記録式標識。温度・圧力・照度等のセンサーを持ちそれらのデータや演算処理した情報 (緯度経度等) を連続的にメモリーに記録する。情報取得のためには装着した魚類等が再捕獲されアーカイバルタグが回収される必要がある。 |
| A-SCALA | Aged-structured Statistical Catch-At-Length Analysis : | IATTC で資源評価に用いられている、漁獲量、努力量及び体長組成データを用いた統合資源評価モデル。モデル内で漁獲物の体長組成を年齢組成に変換するのが特徴。複数の漁法 (年齢別選択制が異なる) に対応し、努力量と漁獲死亡係数の関係に誤差があること、漁具効率に経年変化があること、加入量に変動があること、環境要因と加入量、漁具効率に何らかの関係が予想されることなどを考慮できるのが特徴。MULTIFAN-CL との大きな違いは、海域間の移動を考えない点。 |
| ASAP(Age Structured Assessment Program) | 統計的年齢別漁獲尾数モデル (Statistical Catch at Age Model) の一つ | 統合資源評価モデルの一種、ADAPT-VPA の様々な仮定 (年齢別漁獲尾数は正確、漁具効率一定等) をゆるめた資源評価モデル。 |
| ASPM(Age Structured Production Model) | 年齢構成プロダクションモデル | 資源の年齢構成は考慮するが年齢別漁獲尾数あるいは年齢組成データを使用しない。プロダクションモデルと VPA の中間的な資源評価手法。 |
| ASPIC(A Suite of Surplus Production Model Incorporating Covariates) | | 非平衡プロダクションモデルの一種。年齢別漁獲尾数データが得られない場合の使われることが多い資源評価手法。 |
| B (Biomass) | 資源量 (重量) | |
| B ₀ | 初期資源量 (処女資源量) | 漁業開始前の資源量 (ときには産卵親魚量を指すこともある)。漁業開始時点からデータが無ければ、平均的な加入尾数と死亡率から外挿して計算することもある |
| B _{msy} | | 観測された中で最小の資源量 |
| B _{MSY} | | MSY を達成可能な資源量。 |
| B _{avg} | | 平均加入量 Raveg に対応する (産卵) 資源量 (BMSY の代用値)。 |
| Bait boat, Pole and Line | 竿釣り | 海の表層に分布するカツオ、ビンナガ、キハタ等を生餌を撒いて集群させ、擬餌鉤又は餌の付いた竿で一尾ずつ釣り上げる漁法。カツオの一本釣りが有名。 |
| Bayesian Statistics | ベイズ統計 | ベイズの定理に基づいて構築された統計学の流派。近年の計算機の発達によって現実的なモデルが取り扱えるようになったので急速に水産の分野にも普及してきた。 |
| Beverton-Holt 型再生産曲線 | | 親魚量と加入量の間の関係式の一つ。親魚量が少ないと親魚量にはほぼ正比例して加入量が増加するが、親魚量の増大につれて密度効果により加入量の増加は頭打ちとなる。 |
| Body length | 体長 | まぐろ類、かつお類、かじき類については尾又長、さめ類については全長・尾鰭前長・尾又長、鯨類については上顎先端から尾鰭切れこみまでの直線距離、いか類については外套長、オキアミについては目前端から尾節までの長さ。 |
| Bootstrapping | ブートストラップ法 (ブートストラップ法) | 元のデータから無作為にデータを選び直すシミュレーションを繰り返すことにより仮想のデータを大量に作成して、その分散や平均を計算することによって推定値の精度や偏りを検討する方法。 |
| Bottom trawl | 底びき網 (底曳網) | 海底を引き回すことで漁獲を得る袋状の網漁具。形状や海域などでさまざまに分類される。 |
| BRP(Biological Reference Point) | 生物学的管理基準。 | 当該年の資源量に当てはめて ABC あるいは適切な漁獲死亡係数を算出する。通常は漁獲係数 (F) に基づくが (例: F _{MSY} 、F _{med} 、F _{max} など)、直接的に資源量や親魚量などを基準とする場合もある。 |
| BSP(Bayesian Surplus Production Model) | ベイズ型プロダクションモデル | プロダクションモデルの各パラメータに事前分布を導入してベイズ的なアプローチを取り込んだプロダクションモデル。近年、ICCAT では、標準的な資源評価手法として使われている。 |
| (Fishing) Capacity | 漁獲能力 | 船速や魚群の探索能力なども加味した漁業による潜在的な漁獲能力を意味し、Carrying Capacity (魚船容積) とは区別する必要がある。 |
| CASAL(C++ Algorithmic Stock Assessment Laboratory) | | ニュージーランドで広く使われている資源評価モデル。統合モデルの一種で複数種、系群、回遊をモデル化することが出来る。 |
| CPUE (Catch Per Unit Effort) | 単位努力量あたりの漁獲量。 | 標準化を行って資源量指数として使用されることが多い。はえ縄であれば (1,000 鈎あたりの漁獲尾数 (重量) であるが) まき網の様に資源量指数としての努力量が自明でない漁業もある。 |
| Critical Weight | | 理論的に加入量当たり漁獲量を最大に出来る体重。漁獲物の平均体重がこの値に近ければ近いほど最大の漁獲が得られる。 |
| CV | 変動係数 | 測定のスケールが異なるデータのばらつきを比較するときを求める。標準偏差を平均値で除し 100 をかけたもの (%)。CV によりスケールの異なるデータのばらつきを直接比較することが出来る。 |
| Deeper set | 深縄 (ふかなわ) | まぐろはえ縄において深い水深にいるメバチ等を狙って枝縄を深く入れる操業方式。通常は一鈎あたりの釣り鈎数 (枝縄) を多くして (10 本以上)、到達水深を深くする (200 ~ 350 m)。 |
| Drift gill net | 流し網 (ながしあみ) | 水底に網を固定しない、刺し網の一種。→刺し網、大目流し網 |
| Effective effort | 有効努力量 | 単位当たりの漁獲努力量が漁獲死亡係数 (F) に比例する努力量。一般的には、漁獲圧がある最適な水準 (例えば FMSY) よりも高くなることをいう。あるいは単に獲り過ぎている。例えば漁獲割当量よりも実際の漁獲が上回る場合にも使われる。 |
| Exploitation Rate | 資源の漁獲率 | 漁獲量 / 総資源量 |
| F | 漁獲 (死亡) 係数。 | 漁業による死亡係数 |

| | | |
|---|--|---|
| FADs (Fish Aggregating Devices) | 人工浮魚礁。 | 人工的に集魚する目的で作られる人工筏、パイ等。 |
| F _{limit} | | 望ましくない資源状態になる確率を最小にすることが出来る F |
| F _{target} | | 確実な資源の維持・回復を期待する場合の目標となる F。 |
| F _{max} | 年齢別選択率を固定したときに加入量当たり漁獲量を最大にする漁獲係数 (F)。元々の定義は漁獲開始後の選択率は変わらないとして考えるが、実態にそぐわないので使われない。 | |
| F _{0.1} | YRP と F の関係を表す曲線において原点における傾きの 1/10 の傾きに相当する F (右図) 経験的に安全な管理基準で広く用いられる。 | |
| F _{med} | 親魚量と加入量の関係 (毎年のデータ点のプロット) で中央 (メチアン) に対応する F (右図) で F _{med} で漁獲すると資源量は安定することが期待される。 | |
| F _{MSY} | | MSY を達成する F |
| Fork Length | 尾叉長 | 吻端から尾の切れ込みまでの長さ (かじき類では下顎前端や眼窩後縁から)。 |
| F _{%SPR} | | % SPR (下項参照) に対応する F。 |
| F _{ratio} | | VPA で最高齢とプラスグループの漁獲死亡係数の比。 |
| F _{SSBx%} | | 将来の親魚量が、過去の歴史的な親魚量の変動の下限 (最小値) から x% の親魚量 (例えば過去 100 年間の親魚量の変動のデータがあるときに最小値から順番に過去の親魚量の値を並べたときの x 番目の親魚量) を一度も下回らないようにする F。 |
| FSSB-ATHL | | WCPFC 北小委員会が決定した、北太平洋のビンガの管理基準、過去の親魚量の最小値から 10 番目までの平均を、将来 25 年間で一度でも割り込む確率が 50% になる F |
| Flag of Convenience Vessels | 便宜置籍船 | 他国に便宜的に置籍した船で、税制上の優遇措置を得るために始まった他国に便宜的に置籍した船。特に近年では、地域漁業管理機関で定められた漁業規制を逃れるために、他国に便宜的に置籍した漁船があり、これを便宜置籍漁船と言う。 |
| Free swimming school set | 素群れ操業 (すむれそうぎょう) | 流れ物操業と異なって魚群が閉集 (いしゅう: 群がり集まること) する対象がない群れに対する操業、海鳥や餌魚が居る場合がある。 |
| Growth Overfishing | 成長乱獲 | 漁獲圧が高く、充分成長する前に漁獲されてしまうこと。 |
| Gill net | 刺し網 (さしあみ) | 水中に広げた網の網目に魚体をからめる漁具。水底への固定の有無や、形状でさまざまに分類される。→流し網、大目流し網、反 (たん) |
| GLM (Generalized Linear Model) | 一般化線形モデル | 魚の成熟率のように 0 から 1 の間の値しかとらない量や、漁獲尾数のようにとびとびの値しかとらない量を正規分布の場合の線形モデルと同様に解析するのに用いる。扱える確率分布はポアソン分布やガンマ分布、二項分布など指数分布族と呼ばれる確率分布の種類で、実用上重要な確率分布の多くがこの範疇に属する。この手法は、Nominal CPUE から資源の変動要素のみを抽出する CPUE の標準化に用いられる。 |
| Generalized Production Model | 一般化プロダクションモデル | 資源の反応 (生産曲線) が MSY を中心に対称、非対称のどちらでも有り得るもの。 |
| Habitat model | ハビタットモデル | CPUE の標準化において、魚の分布 (好適生息環境指数、HSI) と漁具の分布を考慮して漁具の有効努力量を標準化するモデル。HSI は記録式標識などで収集した遊泳水深や水温データ等が用いられ、かじき類等、鉛直方向の分布が非常に浅いところに偏っていたりすると有効な手法。主に太平洋のまぐろ類、かじき類で用いられている。ヒントン・中野モデルとも呼ばれる。魚の鉛直分布と釣の鉛直分布からはえ縄の有効努力量を補正するモデル。かじき類等、鉛直方向の分布が非常に浅いところに偏っている場合に有効な手法。主に南西太平洋と東部太平洋のまぐろ類、かじき類で用いられている。ヒントン・中野モデルとも呼ばれる。 |
| Harpoon | 突きん棒 | 通常小型漁船を用い、海の表層にいる魚を視認して鉤 (もり) を打ち込んで漁獲する漁法。 |
| Isolated (epi) pelagic egg | 分離浮性卵 | 卵のタイプで産卵後に海面近くを漂い、かつ何かに付着したり塊になつたりするための粘性を持たない卵。 |
| I T Q (Individual Transferable Quota) | 譲渡可能個別漁獲割当量。 | 漁獲割り当てを漁業者、漁業団体または漁船ごとに配分する方式 (IQ) で、割り当てを他者と取引することが認められているもの |
| Iterorarious spawning | 多回産卵 | さけ・ますのように一生に一度しか産卵しないものと異なって、何回も産卵するもの。まぐろ類では産卵期にはほぼ毎日産卵するものが多い。 |
| IUU (Illegal, Unreported and Unregulated Fisheries) | | 違法で管理されておらず、どこにもその漁獲を報告しない漁業。 |
| Large mesh drift gill net | 大目流し網 | 海の表層に分布するまぐろ類、かじき類、いか類を対象にやや網目の大きいさし網 (刺し網) を用いて表層で漁獲する漁法。主に夜間に網を設置する。→流し網、刺し網 |
| Lognormal (Distribution) | 対数正規分布 | 自然対数をとると正規分布となる分布。正の値のみを取り右にすその長い分布になっている。生物現象を説明するのに用いられることが多い。 |
| Longline | はえ縄 (延縄) | 海の中層遊泳する中・大型のまぐろ類を主として狙う釣り漁法。大型船では一日に 100 km 以上に及ぶ長い幹繩を用い、それに釣り鉤の付いた枝繩を 2500 本程度設置して漁獲する。餌としてイカ、アジ類、サンマ等を用いる。一尾毎に釣り上げるため、魚の身質を高度に保つことができる。 |
| M | 自然死亡係数。 | 漁獲以外の要因による死亡係数 |
| Management Objectives | 管理目標 | 資源管理で達成すべき目標、例、MSY を達成する等 |
| Minimum size of matured individual | 生物学的最小形 | 性的に成熟する最小サイズ。体長で表される事が多い。 |
| Mixed Layer Depth (MLD) | 表層混合層の厚さ | 上下混合のために海水温がほぼ一定となっている海面近くの層の海面からの深さ |
| M P (Management Procedure) | 管理手続き | 資源や漁業が変化した際に、どのような管理措置 (例えば TAC) をとるかを前もって決めておく管理方式、またはその決めた内容を指す。IWC の改訂管理方式 (RMP) がその代表例。 |

| | | |
|---|---|--|
| MSY (Maximum Sustainable Yield) | 最大持続生産量 プロダクションモデルなどに基づく最も有名な管理目標 (右図)。 |  |
| MULTIFAN-CL | | 統合的資源評価モデルの一種。漁獲量、漁獲努力量、体長データ、標識再捕データなど多くの情報を取り込み、体長データを積極的に活用する。海域間の移動もモデル化しており、海域毎の資源量の計算も可能である。 |
| NEI (Not Elsewhere Included) | | 漁獲国を特定できない漁獲量を示す。ICCAT で使用している |
| Nominal CPUE | | 対象魚種の変更や漁具の改良などの資源変動以外の要因の補正 (標準化) をする前の漁船や調査船の生の漁獲データと努力量のデータから計算した CPUE。 |
| Non equilibrium surplus production model | 非平衡プロダクションモデル | 資源が平衡状態にあることを仮定して推定する通常のプロダクションモデルに対し、その仮定を用いず非平衡状態でも適用可能なプロダクションモデル。現在は、こちらの方を用いるのが一般的。 |
| Operating Model (OM) | オペレーティングモデル | 個体群動態、漁獲、資源評価、管理も含めたシミュレーションモデル。資源評価モデルにオペレーティングモデルで作られたシミュレーションデータを解かせて、オペレーティングモデル (仮定の現実) での真の答えと比較することで資源評価モデルの問題点を検討することが出来る。また MP のような管理方策の検討も行うことも可能である。ケープタウン大学のバタワース教授が名付け親。 |
| Otolith | 耳石 | 魚の内耳の三半規管内にあり、カルシウムを主成分とし、有毛細胞の上において加速度を検出し、平衡感覚をつかさどる。耳石も成長し、その成長には季節変化があるため透明帯と負透明帯が形成され、年齢を読み取ることが可能である。さらに、1日に1本の細かな輪紋が形成される種もあり、これを計数することにより日齢を知ることができる。1個体で3種の耳石があるが、年齢査定に用いられるのは通常、最も大きい扁平石である。 |
| Overfishing | 乱獲 (行為) | 狭義には、漁獲圧がある最適水準 (例えば F_{MSY}) よりも高くなることをいう。あるいは単に獲り過ぎている。例えば漁獲割合量よりも実際の漁獲が上回る場合にも使われる。乱獲状態と乱獲行為を区別せず漁獲が続くことにより、資源状態が、「低すぎる」と考えられる基準の資源量よりも悪くなった状況を乱獲という場合もある。 |
| Overfished | 乱獲 (状態) | 漁獲が続くことにより、資源状態が、「低すぎる」と考えられる基準の資源量よりも悪くなった状況。例えば F_{MSY} を下回れば、乱獲状態と判断される場合もある。資源状態で判断するので漁獲圧は低くとも乱獲状態と判断される場合や、逆に漁獲圧は高くても乱獲状態では無いと判断される場合もある。 |
| Pinger (ultra sonic tag) | ピンガー (音波標識) | 魚類等に装着して用いられるのはパルス信号を発する小型超音波発信機。温度・圧力等のセンサー情報を送信することも可能で、行動生態・生息環境情報をリアルタイムで収集できる。超音波伝播距離が限られるため、通常、ピンガーからの信号を頼りに装着した魚類等を調査船で追跡するか、行動範囲に受信装置を配置する形で調査を行なう。 |
| Plus group | プラスグループ | VPA やコホート解析において、ある年齢以上をまとめた年齢群。 |
| Polar front | 極前線 | 北太平洋では親潮と黒潮の境界域 (混合水域) を指す。 |
| Positive list | ポジティブリスト | IUU 漁業の台頭により、これと区別するために正規漁業であることを証明する漁船リスト。まぐろ類に関する各国際漁業委員会で作成。 |
| Pop up tag | ポップアップタグ | 浮上式標識。魚類等に装着した標識はあらかじめ設定した日時に魚体から切り離され浮上し人工衛星経由で浮上位置等を送信する。装着した魚類等が再捕されなくても移動情報が収集できる。また、アーカイバルタグと同様に連続した情報をメモリに保存し、浮上時に送信するアーカイバル・ポップアップタグも使用されている。 |
| Purse seine | まき網 (旋網、巻網) | まぐろや他の表層性浮魚類を漁獲する漁法。巾着のような大きな網を用いて魚群を一網打尽とする。アメリカで発達したことから、アメリカ式巾着網と呼ばれた。大量に漁獲するため、漁獲物の品質はそれほど良くない。小型魚も多く漁獲する。 |
| Precautionary approach | 予防的取り組み | |
| (Surplus) Production Model | プロダクションモデル (余剰生産モデル)。 | 個体群の増殖曲線を基に、資源量と余剰生産量 (加入+成長-死亡) の関係をあらわすモデル。データとして漁獲量と CPUE (努力量当たり漁獲量) を用いる。 |
| R (Recruitment) | 加入量 (尾数) | |
| Random walk | ランダムウォーク | 加入量変動を考えると、そのばらつきが単に平均の周りでランダムにあるのではなく、ある年の加入量は前年の加入量の近辺でばらついていると考えられることがある。このような現象をランダムウォークや自己相関 (過程) と呼ぶことがある。このような加入量の変動パターンが見られる原因はいくつか考えられるが、長期的な環境変動の加入変動への影響などが考えられる。 |
| Reference Points | 管理基準 | 資源管理を行う際に、乱獲等を判断するための基準となる量 |
| Replacement Yield (RY) | | 資源量をそのまま一定水準に保つ漁獲量。 |
| Reproductive value | 繁殖価 | 繁殖価および繁殖ポテンシャルは年齢が異なる個体や資源の再生産上の価値を相対的に比較するための概念である。繁殖価はある魚を漁獲しなければ将来どれだけ子孫を残すかを表す。個体の再生産能力の指標として使用される。 |
| RFMO (Regional Fisheries Management Organization) | 地域漁業管理機関 | 広範囲に回遊するかつお・まぐろ類等について、ある一定の広がりを持つ水域 (例: インド洋) の中で、漁業管理をするための条約に基づいて設置される国際機関 |
| Recruitment Overfishing | 加入乱獲 | 漁獲圧が高く、加入量の減少をもたらすほど親魚量が漁獲によって減少すること。 |
| Sensitivity Test | 感度テストまたは感受性試験 | 資源評価の際に、特定のパラメータの影響を評価するため、そのパラメータを変化させて結果に及ぼす影響を検証すること。 |
| Set net, Trap net | 定置網 | 海中に設置される袋型あるいは箱形の網漁具。沿岸に回遊する魚類等を対象とする。形状や規模でさまざまな分類される。→統 |
| Shallower set | 浅縄 (あさなわ) | まぐろはえ縄において、深縄と対照的に夜間メカジキを狙う際には、表層付近を狙うため浅い水深に漁具を設置する。通常は1鉢 (ひとはち: 縄の浮き玉と浮き玉の間) 当り枝縄3~4本を用いる。→深縄 |
| Subtropical Convergence | 亜熱帯収斂線 (あねったいしゅうれんせん) | 中緯度・亜熱帯海域を東西に走る表面流の弱い収束線と亜熱帯収束線とも呼ばれる。南半球では、各大洋の中央水と亜南極海域の水塊との境をなしている。北太平洋では中央水内部での南西流と北赤道海流との間にある収束線を指すが普通であるが、あまり明確な前線ではない。 |
| SBR (Spawning Biomass Ratio) | | IATTC が用いている漁業がなかったと仮定したときに期待される産卵親魚量とある年の産卵親魚量の比 ($S_t/SF=0$)。計算開始時に漁業がなく資源が定常状態であった場合を除いて %SPR とは異なる。 |

| | | |
|--|-----------------|---|
| SCRS(Standing Committee on Research and Statistics) | 統計調査研究常設委員会 | ICCAT の科学委員会 |
| SPR(Spawning Per Recruitment) | 加入量当たり産卵資源量 | データとして年齢別体重、成熟割合、自然死亡係数、年齢別加入割合を用いる。管理目標が資源水準の維持なら $SPR = 1/RPS$ 、資源の回復を目標とするなら $SPR > 1/RPS$ とする。 |
| % SPR | | 漁獲がないとき ($F=0$) の SPR を 100 としたときの漁業があるときの SPR の割合。 |
| SSB(Spawning Stock Biomass) | (産卵) 親魚量 (重量)。 | Spawning biomass ともいう。 |
| SSB_{AMSY} | | AMSY を達成可能な産卵資源量。 |
| SST(Sea Surface Temperature) | 表面水温 | |
| SS (Stock Synthesis) | | 漁獲量、CPUE、体長組成データを組み込んだ年齢構成モデル。MULTIFAN-CL や A-SCALA と同じくいわゆる統合モデルの一種。米西海岸の底魚資源の標準的な資源評価モデル。IATTC および ISC でのまぐろ、かじき類の資源評価でも使用されている。 |
| Standardized CPUE | 標準化 CPUE | Nominal CPUE の年々の変動に含まれる、対象魚種の変更や漁具の改良などの資源変動以外の要因を補正した CPUE。補正を行うことを標準化と言う。標準化には GLM の様な統計手法等が用いられる。 |
| Surface fishery | 表層漁業 | 海の表層にいる魚群を対象とする漁法。まき網、竿釣り、ひき縄等が該当する。 |
| Statistical habitat model | 統計的ハビタットモデル | ハビタットモデルでは、記録式標識などから得られた外部情報 (例えば水深分布) を魚の好適生息環境指数 (HSI) として直接用いるが、統計的ハビタットモデルでは、漁具の設置位置と別途得られた環境データからモデル内で統計的に HSI を推定し、CPUE の標準化を行う。 |
| Stock | 系群 | 資源の遺伝的構造が同一な最小構成群。 |
| Stock status | 資源水準 | 過去 20 年以上にわたる資源量 (漁獲量) の推移から、「高位、中位、低位」の 3 段階に区分。 |
| Stock trend | 資源動向 | 資源量や漁獲量の過去 5 年間の推移から「増加、横ばい、減少」に区分。 |
| Straddling stock | ストラドリングストック | 複数の (漁業管理上の) 海域をまたいで分布する漁業資源。 |
| TAC(Total Allowable Catch) | 許容総漁獲量。 | あらかじめ定めた漁獲量の上限 |
| TED(Turtle Excluding Device) | 海亀回避装置 | |
| Tag release | 標識放流 | 個体に識別標識 (ビニール製の細長い標識やひれの一部を切りとる等) を装着し、放流と再捕時の情報から対象生物の成長、死亡率、回避に関する知見を得る。資源量推定に用いられる場合もある。再度漁獲した際に識別できるように、個体に識別標識 (ビニール製の細長い標識やひれの一部を切りとる等) を装着し、漁獲された際の情報から対象生物の成長、死亡率、回避の推定に用いられる。資源量推定に用いられる場合もある。 |
| Thermocline | 水温躍層 (すいおんやくそう) | 海中の上下方向に水温が急激に変化する部分を指す。温度躍層は主水温躍層と季節躍層に分けられる。赤道域ではそのうち主水温躍層が主に見られ、海面付近では目射により海水温は高い状態にあるが、深度数百 m より深い場所では 1 年を通じて水温が低い状態ではほとんど変化しない。主水温躍層はこの温度差によって生じる。 |
| Tori (Streamer) line | トリボール | まぐろはえ縄船において海鳥の混獲を防ぐ目的で船尾付近に立てられるボール。これにはロープが付けられるとともに、他の目立つビニールテープ等が付けられ、船尾から流して投入した餌に海鳥が掛かるのを防ぐ。 |
| Troll fishery | ひき縄 (曳縄) | 海の表層に分布するまぐろやかつお、時にはかじき類を対象にルアー (擬餌鉤) や生餌を使って行なう曳き釣り漁法。まぐろやかつおは小型魚が主として漁獲される。 |
| UNCLOS(United Nations Convention of on the Law of the Sea) | 国連海洋法条約 | 海洋法秩序に関する包括的な条約として、1982 年に第三次国連海洋法会議において採択され、1994 年 11 月に発効 |
| VMS(Vessel Monitoring System) | 漁船位置通報監視システム | 定期的、自動的に、漁船の位置を報告するシステム |
| VPA(Virtual Population Analysis), Cohort Analysis | コホート解析 | 同一年級群 (同じ年生れ) の魚の資源尾数を、年齢別漁獲尾数を用いて計算する方法。年齢別漁獲尾数は正確に分かっていると仮定している。 |
| VPA-2 Box | | ADAPT VPA の一種で ICCAT や米国メキシコ湾岸の資源評価で用いられている。空間構造、性別を考えない通常の ADAPT VPA の他に雌雄を区別したり、2 海域までの空間構造、2 系群が混合している状況に用いることが出来る。 |
| Y/R (Yield Per Recruitment) | 加入当り漁獲量。 | データとして年齢別体重、自然死亡係数、年齢別加入割合を用いる。一定の加入がある場合、ある年齢別加入割合と漁獲の強さによって得られる漁獲重量を加入 (一尾) あたりで表わす。大きいほど得られる漁獲量は大きくなる。 |
| | 反 (たん) | 流し網の努力量の単位。流し網などの網漁具の網一枚の単位から来ている→流し網 |
| | 統 (とう)、カ統 (かとう) | 定置網の努力量の単位。12 あるいは 16 反の連続した網を数える単位から来ている→定置網 |